大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	G138110110497	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	弓削商船高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	弓削商船高等専門学校　離島工学に基づく高度情報専門人材育成コースの構築
学校種	高専	都道府県	愛媛		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和7年度	４月　学科設置認可申請（事前相談） 学科受け入れ準備 ５月　募集要項 １月　入学者選抜（推薦・学力）　80名	４月　学科設置認可申請（事前相談） 学科受け入れ準備 ５月　募集要項 １月　入学者選抜（推薦・学力）　80名	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①BYOD対応のため教室等改修工事（1期）の実施[創造工学科1年教室、情報工学科1年教室~~、情報工学科4年教室、アセンブリホール~~]（R8.3.26承認） ②BYOD対応のため教室等改修工事（1期）の実施[2学科共用教室]（R8.3.26承認） ③BYOD対応のためネットワークインフラ工事、演習用インフラ整備の実施（R8.3.26承認） ④新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）	令和７年11月～令和８年３月　①BYOD対応のため教室等改修工事（1期）の実施[創造工学科1年教室、情報工学科1年教室] 令和７年11月～令和８年３月　②BYOD対応のため教室等改修工事（1期）の実施[2学科共用教室] 令和７年10月～令和８年３月　③BYOD対応のためネットワークインフラ工事、演習用インフラ整備の実施 令和７年11月～令和８年２月　④新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託		
令和8年度	４月　第1期生入学　80名 令和９年度入学者選抜 一期生コース分け（ものづくりコース）		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①BYOD対応のため教室等改修工事（2期）の実施[創造工学科2年教室、情報工学科2年教室~~、マルチメディア教室~~]（R8.3.26承認） ②BYOD対応のため教室等改修工事（2期）の実施[2学科共用教室]（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認） ④創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ⑤情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認）			
令和9年度	４月　第2期生入学　80名（計160名） 令和10年度入学者選抜		令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①BYOD対応のため教室等改修工事（３期）の実施[創造工学科3年教室、情報工学科3年教室] ②創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ④新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和10年度	４月　第3期生入学　80名（計240名） 令和11年度入学者選抜 一期生コース分け（情報工学科）		令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①BYOD対応のため教室等改修工事（４期）の実施[創造工学科4年教室、情報工学科4年教室] ②BYOD対応のため教室等改修工事（４期）の実施[電気室]（R8.3.26承認） ③創造工学科における教員の確保（実務家教員） ④情報工学科における教員の確保（実務家教員） ⑤新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和11年度	４月　第4期生入学　80名（計320名） 令和12年度入学者選抜		令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①BYOD対応のため教室等改修工事（５期）の実施[創造工学科5年教室、情報工学科5年教室] ②BYOD対応のため教室等改修工事（５期）の実施[アセンブリホール、マルチメディア教室]（R8.3.26承認） ③創造工学科における教員の確保（実務家教員） ④情報工学科における教員の確保（実務家教員） ⑤新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和12年度	４月　第5期生入学　80名（計400名） 令和13年度入学者選抜 第1期卒業		令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ②情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和13年度	４月　第6期生入学　80名（計400名） 令和14年度入学者選抜 第2期卒業		令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ②情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和14年度	４月　第7期生入学　80名（計400名） 令和15年度入学者選抜 第3期卒業		令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ②情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和15年度	４月　第8期生入学　80名（計400名） 令和16年度入学者選抜 第4期卒業		令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	①創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ②情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			
令和16年度	４月　第9期生入学　80名（計400名） 令和17年度入学者選抜 第5期卒業		令和16年度自己評価	リストから選択してください。
	①創造工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ②情報工学科における教員の確保（実務家教員）（R8.3.26承認） ③新たな教育課程実施に向けた教材開発の委託（R8.3.26承認）			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	弓削商船高等専門学校

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	弓削商船高等専門学校

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①　地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
自治体との連携 本学は愛媛県、今治市、上島町と各種協定を結んでいる。特に上島町とは毎年連絡協議会を開催しており、連携を密にしている。また、ＰＢＬや学生ボランティア活動及び共同研究の実績もある。支援期間中には、地方創生2.0に基づく各種公募・基金に応募する事業を学生が主体となって上島町と発案し、離島環境において活用可能な弓削商船高専モデルを公開する計画である。 企業等との取り組み 伊予銀行・愛媛銀行と包括連携協定を結び、金融工学などの学生向け授業を実施している。両銀行はフィンテック関連のコンテストを実施しており、令和６年度「未踏的な地方の人財発掘育成支援事業」のプロジェクトに本校チームが２件採択（四国６件中）され、講師による支援を受けて開発した研究成果で、高い評価を得ている。支援期間中には、大学・企業との連携によりアントレプレナーシップの高い意識を持つ学生を育成し、コンテスト等の実践で活躍できる人材を育成する。また本学ではDX推進に特化したノーコードツールを授業等で展開しており、地域共同研究推進センターと連携し、企業への講師派遣、共同研究や受託研究の締結数増加に繋げる計画である。	自治体との連携 地元自治体（上島町）と連携して、地域の活性化や人材育成、課題解決を目的とした「離島人材育成基金助成事業」に応募し、1件採択された。また、「地域創生演習」の科目を通じ、ボランティア活動に参加した。今後さらに「離島工学」を用いて、地域課題解決に向けた取り組みを推進していく。 企業等との取り組み 地元銀行と連携し、経済産業省「未踏的な地方の若手人材発掘育成支援事業費補助金『AKATSUKIプロジェクト』」採択事業である「LEADING　EDGE四国」に学生2名が参加した。2名とも一次審査及びプレゼン審査会を通過し、1月31日に最終報告会を実施した。さらに、12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。また、地域共同研究推進センターと連携し、企業への教員を派遣し計3回出張講演を行った。産学連携フォーラムも12月11日に開催し、企業との連携を深めた。その結果、共同研究、受託研究等の新規受入は2件となった。引き続き、企業等と連携し、学生のアントレプレナーシップの育成及び共同研究等を推進していく。	

②　初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
近隣自治体（上島町、今治市、福山市、尾道市など）の教育委員会と連携し、小中学校に対して人工知能やロボットプログラミング等の出前授業を毎年10件～15件実施している。また、練習船弓削丸を活用した海事啓発活動においても、同様の情報人材育成活動を年間5件程度実施している。支援期間中には、小中学生を対象としたスキル習得講座認定制度を導入する計画である。具体的には、小中学校向け高度情報専門人材育成プログラムを開設し、各種スキル習得講座を実施し、その受講内容によって認定レベルを判定する。 また、従来の出前授業に、高専プロコン及び高専プロコン交流育成協会と連携した新たな本校主催のプログラミングコンテスト「しまなみプロコン」の概要を含める。そのことによって、出前授業を実施した小中学校の生徒・児童のコンテストへの出場意欲の向上を図り、近隣（しまなみ：上島町、今治市、福山市、尾道市など）地域における小中学校間の交流とコンテストによる人材育成に貢献する。 これらの取組みは、小中学校の理工系教育の推進に寄与すると共に、創造工学科と情報工学科の推薦制度にも活用することが期待できる。	近隣や地元自治体（上島町、尾道市など）と連携し、出前授業を7回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて10回、合計17回実施した。出前授業では、情報人材育成に繋がる「プログラミング教育」や「デジタルファブリケーションによるものづくり」を実施し、合計409名が参加した。引き続き、小中学校向けの高度情報専門人材育成に向けた講座を実施する。 入試においては、創造工学科と情報工学科はそれぞれ別々に選考していたが、高度情報専門人材という共通目的のために、令和7年度入試からの推薦入試において第二志望も取り入れた。これにより、高度情報専門人材という共通項で学生が集まり、創造工学科に多くの学生が集まった。	高専プロコン及び高専プロコン交流育成協会と連携した新たな本校主催のプログラミングコンテスト「しまなみプロコン」開催を計画しているが、まだ具体的な計画は立案できていない。今後具体的に検討していく必要がある。 小中学生を対象としたスキル習得講座認定制度を導入する予定であるが、まだ実施できていない。具体的には、小中学校向け高度情報専門人材育成プログラムを開設し、各種スキル習得講座を実施し、その受講内容によって認定レベルを判定する予定である。令和7年度もチャレンジキャンパスにおいて子供向け講座として「プログラミングで遊ぼう」など、情報専門人材の育成に向けた講座は開講しているが、今後認定制度など検討して、導入する必要がある。

③　女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生 改組前の女子学生の割合は全体で18%であるが、情報工学科における女子学生の割合は約40%である。電子機械工学科を情報系の工業系学科に改組することで、女子学生の比率が増加することが期待される。令和５年度からオープンキャンパスにおいて、女子中学生を対象とした本校女子学生との座談会を実施し、令和６年度は山田進太郎D&I財団「Girls Meet STEM」に参画し、女子学生確保に向けて広くPRしている。また、令和２年に女子寮が新設されており、受け入れ体制も整っている。支援期間中には、これまでの活動の継続と女子中学生を対象とした本学女子学生が講師を務めるスキル習得講座を開設し、女子学生確保へと繋げる計画である。 社会人学生 社会人学生の確保に向け、改組後は編入学、専攻科への入学を念頭に、社会人向けの公開講座やリスキリングのための講座として履修プログラムを研究生制度等で活用して、社会人学生の受け入れを進める。 留学生 国費留学生を中心として、ほぼ毎年留学生の受け入れている。令和６年度は国際交流協定のあるモンゴル科学技術大、ナコンパノム大などと相互研修、７年度は海外高専（タイ高専）からの留学生の受け入れを拡大する。支援期間中に強化予定のアントレプレナー関連プロジェクトやコンテストなどに積極的な参加を進め、本校在学中の満足度を高めていき、留学生確保へと繋げる。	女子学生 令和6年度入学生に占める女子学生は24%であったが、令和7年度は26%と若干の増加であった。これまで電子機械工学科の女子学生が少なかったので、改組を伴う高度情報専門人材の創造工学科では女子学生の増加が見込める。 これまでオープンキャンパスにおいて、商船学科では参加者一組につき女子学生が一人ついて、学校を案内しながら生活相談も行う時間を設けて活動している。また、女子中学生を対象としたサロンを開き、女性教員及び女子学生が入学相談などを行う場所を設けた。令和7年度高専GCON（GIRLS SDGs×Technology Contest）においては、女性教員が指導する女子学生チームが「音声認識と画像処理を用いた水泳タイムの自動管理アプリの開発」というタイトルで参加した。 社会人学生 社会人学生確保に向け、社会人も対象とした資格取得講座を開講し、社会人1名が受講した。公開講座についても社会人を対象とした講座を３講座実施し、社会人20名が参加した。引き続き、社会人に対しても学校の魅力を発信し、社会人学生確保を推進していく。 留学生 支援期間1年目である令和7年度は、留学生を2名（インドネシア人1名、タイ人1名）受け入れた。モンゴル科学技術大学とも新たに国際交流協定を締結し、相互訪問を実施した。具体的には、9月4日～16日にかけてモンゴル科学技術大学へ学生を2名派遣し、10月28日～11月12日にかけてモンゴル科学技術大学から学生４名を受け入れた。今後は留学生に対してもコンテスト等への参加を推進し、留学生の満足度をさらに高めていく。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	弓削商船高等専門学校

④　他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
大学・高専間単位互換協定 　本学は複数の連携協定を結んでいる。eラーニング高等教育連携(eHELP)では、長岡技科大、豊橋技科大、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学をはじめ、4大学36高専と単位互換協定を結んでおり、オンデマンド講義等による遠隔授業を実施している。本学では、専攻科の情報関係科目を中心に毎年受講実績がある。本科生も外部聴講生（単位読み替えなし）として自分の興味のある授業を受講するなど活用している。また、本学から要望した新規科目「生物」が令和８年度から提供される予定であり、相互の科目連携が実現できる。また、広島大学、海上保安大学校及び商船系高専との交流と連携・協力協定では、講師派遣、出張授業、研究生受け入れ、大学院特別入学制度などが行われており、情報系学科も対象となっている。 商船系高専連携 　海事人材育成プロジェクトにおいて、全国の商船系高専と海事関連団体が次世代の海事人材を育成するための教育システムの開発と実装を行っている。工業系における連携の枠組みとして商船系高専の連携を活用する。 コンテストにおける連携 　高専ではロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、ディープラーニングコンテストなど創造性を養うコンテストが多く実施されている。本学では各種コンテストに積極的に参加し、高専プロコンでは学生の入賞回数はトップレベルにある。また、コンテスト運営にも積極的に参画し、全国の高専教員と連携・協力関係を有している。各種コンテストでの入賞を目指して活動していく。	大学・高専間単位互換協定 　高専間単位互換制度を利用し、東京工業高等専門学校の授業を学生1名が受講した。 商船系高専連携 　商船系5校では、海事人材の育成として10数年にわたり連携を行ってきた。令和8年2月6日には第7回高専・海事教育フォーラムを東京の機械振興会館において、海事産業の企業や文部科学省、国土交通省などの海事関係者を招き、近年の成果を報告した。中でも海運界においても重要度が増している高度情報専門人材として、「データサイエンスの素養を備えた船員を育成する教育プログラムの検討」なども発表した。 コンテストにおける連携 　ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、ディープラーニングコンテストなど各種コンテストに積極的に参加した。 「LEADING　EDGE四国」に参加した学生2名が一次審査及びプレゼン審査会を通過し、1月31日に最終報告会を実施した。さらに、12月10日に第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で学生5名が優秀賞を受賞した。令和8年度は高専ロボコン四国地区大会を主催するため、四国地区の高専と連携を取りながら運営することを目指す。	

⑦　文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
申請時点において数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム「リテラシーレベル」の認定を受けている。	令和7年8月に「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を受けた。 令和7年度卒業生が、本校初めての数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定の卒業生となった。	

高等専門学校名	弓削商船高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

１.本事業対象となる情報系組織の状況

＜合計＞

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	80																	
	事業計画に定める定員	編入学定員	人	-	0																	
学生の入学･在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	80	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	-	87	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	-	17	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.09	-	-				-	-			-	-	-	-	-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	80	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学定員	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数(D)	人	-	87	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学者数	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.09	-	-				-	-			-	-	-	-	-	-		
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	0	-	-				-	-			-	-	-	-	-	-		
		就職者数	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	20	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	-	4	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

高等専門学校名	弓削商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

本事業対象となる学部等の個数	2

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

（1）

改組組織名	創造工学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定・認可	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	40																	
		編入学定員	人	-	0																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	40																	
		入学者数(B)	人	-	46																	
		女子学生数	人	-	4																	
		社会人学生数	人	-	0																	
		留学生数	人	-	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.15																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	40																	
		編入学定員	人	-	0																	
		在籍者数(D)	人	-	46																	
		編入学者数	人	-	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.15																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	-	0																	
		進学者数	人	-	0																	
		その他	人	-	0																	
		進路不明	人	-	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	10																	
		授業科目の単位数	単位	-	4																	

高等専門学校名	弓削商船高等専門学校

(2)

改組組織名	情報工学科

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
改組状況				選定	開設																	
		事業計画に定める定員	入学定員	人	-	40																
			編入学定員	人	-	0																
学生の入学･在籍状況	入学者合計		入学定員(A)	人	-	40																
			入学者数(B)	人	-	41																
			女子学生数	人	-	13																
			社会人学生数	人	-	0																
			留学生数	人	-	0																
			入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.03																
	収容定員等		収容定員(C)	人	-	40																
			編入学定員	人	-	0																
			在籍者数(D)	人	-	41																
			編入学者数	人	-	0																
			収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.03																
卒業後の状況	卒業者数等		卒業者数	人	-																	
			就職者数	人	-																	
			進学者数	人	-																	
			その他	人	-																	
			進路不明	人	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画		教員数	人	-	10																
			授業科目の単位数	単位	-	0																

高等専門学校名	弓削商船高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

2.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	-	80																	
		入学者数（B）	人	-	87																	
		女子学生数	人	-	17																	
		社会人学生数	人	-	0																	
		留学生数	人	-	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.09																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	80																	
		編入学定員	人	-	0																	
		在籍者数(D)	人	-	87																	
		編入学者数	人	-	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.09																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-																		
		就職者数	人	-																		
		進学者数	人	-																		
		その他	人	-																		
		進路不明	人	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	17																	
		授業科目の単位数	単位	-	4																	

高等専門学校名	弓削商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

３.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	120	120																	
		入学者数（B）	人	125	131																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.09																	
	収容定員等	収容定員（C）	人	640	640																	
		編入学定員	人	-	1																	
		在籍者数（D）	人	633	635																	
		編入学者数	人	-	1																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.99	0.99																	

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
外部資金獲得額	千円	24,477																		

特記事項

創造工学科及び情報工学科における編入学定員0人は、各年度における編入学の募集学科及び募集人員について、その学科の現員等を考慮し教育に支障をきたさない範囲で定めることとしている。